

立教独自のコミュニティ支援『わくら Diary』について

1. 実施の経緯

「立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト（令和6年能登半島地震）」の第2弾参加メンバーが、活動を共にした、もしくは活動中に会った現地の方々の声をもとに、立教チームとして「何を指して活動していけばいいのか」を整理し、“VISION”としてまとめました。

その内、「和倉に対して」の実現を目指す取り組みとして、第3弾から開始したものが、『わくら Diary』です。現地の方々から和倉地域に住む方々が、被災者としてではなく一人の住民としてこれまでの日常を想起し、和倉地域への愛着を深められるように、写真をもとにした語りの場『わくら Diary』の企画・運営に取り組んでいます。そこでの語りは、今回の参加メンバーが記録し、広く発信していく予定です。

2. 『わくら Diary』の企画・運営におけるキー要素

(1) 和倉地域に住む方々における「暮らしの語り」を引き出す。

「被災者としての住民」ではなく、「地域で暮らしてきた一人の住民」として、“和倉らしさ＝復興過程で失いたくない文化や景色など”を語ってもらい、復興まちづくりの推進者にその声を届ける。

→立教チームが政策推進者・事業者と住民の架け橋になる。住民の声を大事にした復興へ。

(2) 「わたしの語り」を「みんなの語り」にする。

被災者同士の分断（住民同士、事業者と住民、企業に内部における経営層と現場スタッフなど）を解消するため、新たな結び目をつくったり、現在のつながりをより深めたりする。

(3) 今の語りを未来につなげる。

住民の語りを、記録として蓄積し未来につなげていく。証言集の製作・公開。

(4) 【将来的に】「みんなの語り」を重ねる

集めた「写真＋語り」を、地域にアーカイブし、現地で公開する。

3. 『わくら Diary #1』の様子

写真による日常想起のワークショップ

「わくら Diary」

テーマ 和倉で見つけた“あなただけの宝物”を教えてください！



1. わたし（個人）の語りを引き出す

- ・ 1枚の写真持参してもらう
- ・ 写真にまつわる語りを受け止める
- ・ 語りを記録する（承諾を得たうえで）

2. わたしたち（住民という集団）の語りを引き出す

- ・ 参加者が持参した写真を時系列に並べる
- ・ 1段階で記録したキーワード（付箋）を周りに貼る
- ・ 住民同士の交流につなげる

「わたしたちに、和倉のことを教えてください！」

わくら Diary

日時 2025年2月19日(水)
時間 13:30~15:00

会場 和倉温泉 純湯（観光交流センター）

参加自由！直接会場にお越しください！
※和倉温泉（和倉温泉）に駐車する場合は、和倉温泉（和倉温泉）に駐車してください。

テーマ 和倉で見つけた“あなただけの宝物”を教えてください！

和倉温泉（和倉温泉）に駐車する場合は、和倉温泉（和倉温泉）に駐車してください。和倉温泉（和倉温泉）に駐車する場合は、和倉温泉（和倉温泉）に駐車してください。

お問い合わせ 和倉温泉（和倉温泉）に駐車する場合は、和倉温泉（和倉温泉）に駐車してください。

お申し込み 和倉温泉（和倉温泉）に駐車する場合は、和倉温泉（和倉温泉）に駐車してください。

お申し込み 和倉温泉（和倉温泉）に駐車する場合は、和倉温泉（和倉温泉）に駐車してください。

4. 『わくら Diary #2』について

テーマ：「誰かに話したい和倉での思い出写真」

開催日：2025年8月21日（木）

会場：和倉温泉創造的復興まちづくり拠点『わくらす』

※詳細な内容や運営方法については、第3弾の取り組みをもとに、第4弾の参加メンバーで検討・調整していきます。